

事業名【担当課】

大学連携事業【たつせがある課】

外部評価実施者からの意見

長久手市の取り組みとして、各課における連携事業と市内4大学との4U事業があることを知った。また、それぞれの活動について説明を聞くにつれ、その意義をよく理解することができた。4U事業については、愛知県立大学と愛知淑徳大学のホームページにおいても確認することができた。愛知県立芸術大学、愛知医科大学においても地域連携の一環としてより表に見える形で情報公開をしてもらえるように働きかけることもできるかもしれない。そのことにより、大学のイメージアップや学生の参加への関心を高めることができるのではないかと思う。委員からの意見があったように、成果指標として、参加者の延べ人数とともに、事業内容を分かりやすく伝えるもの、また事業内容の成果を伝えるデータ等を含めると、より分かりやすいものになるだろう。

大学の専門性や特色を生かし、地域課題の解決と活性化を図る事業を実施していくのであれば、地域における活動団体の構成や活動内容が、結構、地域ごとに異なっている現状でもあることから、今後は、各地域で実際に行われている活動に参加してもらい、その地域の課題を十分に認識するとともに、かつ十分に踏まえて、当該地域の中で地域の人々と共に活動していくことを、積極的に取り入れていく必要があると思います。

このような活動をすることが、まさに地域に合った、より実質的な成果をもたらすことになるのではないかと思います。

す。

このように、大学が、地域団体が地域のために行っている活動の中に加わって、大学の専門性や特色を発揮しつつ、地域住民と共に一緒に活動することにより、地域もより活性化し、地域課題の解決と活性化が一層図られることになると思います。

長久手市と近隣の大学が連携することで、市の活性化を図る事業である。大学や学生には社会勉強や研究活動での実証の場を得られるメリットがあり、市や市民には大学生の専門性や若者の地域貢献が得られるメリットがあると理解した。成果指標とした、イベントへの参加人数は指標の一つではあるが、別の成果として、本事業で得られた大学側の研究成果もあるかと思う。これを積極的にPRすることで、本事業の双方のメリットや有用性が市民に一層理解されるかと考える。また、学生まちづくり支援事業の委託費として、市内4大学へ一律額の支給に対し、大学間の積極性に差があることを市は懸念しているようだが、これは各大学の実施内容をもっと分かりやすい形にまとめて情報公開することで、競争原理が働くのではないかと考える。

新市長の政策の一環<学生主体の若者会議を設置し意見を反映>に則りたつせがある課が主催で早々に大学生と県下初の女性市長との懇談会の実施を強く要望します。

コロナが落ちつき、学生さん達の活躍の場が増えてきている事はとても喜ばしい事だと思います。参加した学生さんの感想などよく聞いて、体制づくりに活かしていくとよいと思います。また、参加したくても参加できない学生の理由なども参考にして今後の運営に繋げていけるとよいと思います。

担当課対応状況

- ・学生が地域で活動しやすくなるような工夫が必要であるという意見を踏まえ、市内4大学に一律額の委託契約にて実施してきた4Uワーキングから、令和6年度より協働まちづくり活動補助金への申請に切り替えていくことを検討しています。このことで、学生が地域の課題を認識すると共に地域の人との交流が生まれ、かつ学生の活動の幅が広がり地域で活動しやすくなることを考えています。
- ・令和6年度よりリニモテラス公益施設の指定管理者が切り替わるため、今まで以上に大学生の活動の場として活発に機能されるよう次期指定管理者と協議を進めています。
- ・市内の大学との情報提供・共有の場として、令和6年度以降も大学連携調整会議を引き続き開催し、大学の専門性や特色を生かした大学同士の連携によって生まれる相乗効果を地域や市民に還元できるような体制づくりを進めていきます。
- ・大学連携事業をより表に見える形で情報公開をするために、大学同士の連携によって生まれた成果や実績、大学の公開講座情報や大学側の研究成果など情報発信していくため、市ホームページの整理を行います。
- ・新たな取り組みとして、現在、愛知医科大学病院が健康寿命をのばすりハビリテーション医療を推進していくため、市のガバメントクラウドファンディングを活用し、寄付金を集めています。これは、大学にとってより多くの支援者を集めることにつながる上、大学及び長久手市のPRともなり相互にメリットが享受できます。これまでにない新しい形での大学との連携を積極的に進めているところです。